Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-16

「持続可能なへき地教育」の研究

河本，大地

(Citation)
「小さな学校」研究:1-82

(Issue Date)
2019-04-20

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

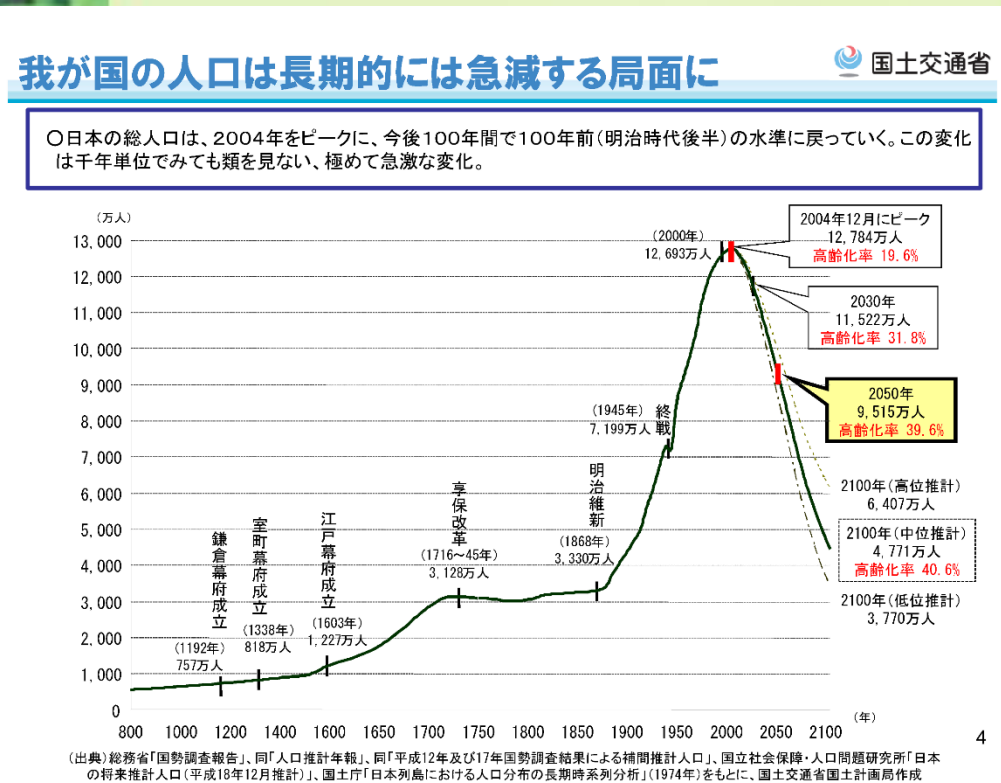
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005909

「持続可能なへき地教育」の研究

奈良教育大学
河本大地

目的

- 「へき地教育」をどう持続可能にするか？
- 持続可能な社会づくりの担い手を育むための「へき地教育」の在り方とは？



構成

Ⅰ　今、なぜ「へき地教育」に注目するのか　・・・地理学の視点から

Ⅱ　これまでの「へき地教育」

1．へき地教育振興法の制定（1954年）および全国へき地教育研究連盟を中心とした体制構築とその継続性

2．初期（1950・60年代）のへき地教育の現代的意義

3．現在課題とされていること

Ⅲ　「へき地教育」の持続に向けて

1．へき地学校の維持には何が必要か
　・・・沖縄県国頭村の事例から

2．へき地学校におけるESD展開の現状

3．体系的な地域学習システムの構築とその効果
　・・・京都府南丹市美山町の事例から

Ⅳ　おわりに　～今後に向けた研究課題は？

背景

- 日本の陸地面積の3分の2は森林に覆われており、広大で奥深い山間地域が広がっている。
- また、島国である日本には、離島も数多く存在する。

- その中でも、「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、離島その他の地域に所在する公立の小学校、中学校」等は「へき地学校」として、1954年に制定された「へき地教育振興法」の対象。

- これは、教員の確保、施設・設備の整備、学習の指導方法等に多くの困難な条件を背負っているためとされる。

- しかし、こうした学校も小規模化や統廃合が進み減少
- へき地学校の所在する地域の多くは、人口減少や少子高齢化、周縁化、農地や森林の荒廃、獣害の増加、産業や公共交通機関の縮退、誇りの欠如など、程度の差はあれ共通の地域課題

- 日本全体の人口急減・高齢社会化が進む中、それらの先駆けであり、かつ広大な面積を占めるこうした地域の教育の未来像を検討することには意義がある。
- また、世界的に都市の肥大化が進み、人類の多くが都市的地域で暮らすようになる中でのへき地の在り方を考えることも意義深い。

- しかし、持続可能な社会の構築を意識してへき地教育の今後を見据えた研究はほとんどない。

へき地学校等の分布と特徴

- 全国に2942校

（全国へき地教育研究連盟のウェブサイトにある「全国へき地・複式・小規模等リンク」に2018年11月30日現在掲載されている公立の小学校・中学校・義務教育学校）

- 分布図はここでは省略します。

Ⅱ　これまでの「へき地教育」

へき地教育振興法

- へき地学校の教員の運動によって1954年に制定。
- 1951年に岐阜県高山市等で岐阜県教育委員会主催、文部省後援の「小さい学校教育研究全国大会」が開かれたことが契機。
- 翌年には北海道帯広市等で「第1回全国へき地教育研究大会」等が開かれ、その際に「全国へき地教育研究連盟」が結成された。

へき地教育の実態
小規模学校の経営
講座
教育社会学
Ⅸ へき地の教育
小さな学校の事典
久保田治・中村琢 編著
へき地学校の教育課程と施設設備
文武館百年史
全国へき地教育研究大会記録
地域の素材を生かした効果的な学習指導法

- 1960年前後の「へき地教育」関連図書に記されていることを、少し紹介しました。

全へき連概要

活動内容

沿革の大要

研究主題

大会開催一覧

本年度概要

行事予定表

大会情報

お問合せ先

全へき連概要

本連盟の目的

この連盟は各都道府県へき地教育研究団体の活動を促進し、関係機関団体との連絡を密にして、へき地学校、小規模学校、複式学級を有する学校、分校等の教育の充実をはかり、もってへき地における教育の振興をはかることを目的とする。

目的達成のための事業

1. 教育研究大会、研修に関すること。
2. 研究、調査に関すること。
3. 資料並びに情報の収集交換に関すること。
4. 「全国へき地教育新聞」の編集並びに研究成果刊行物等の発行に関すること
5. 各種関係機関及び団体との連絡提携に関すること。
6. 教育諸条件の整備に関すること。

コンベンション（大会）参加者アンケート（お願い）
平成29年度
平成29年、大政奉還150年　平成30年、明治維新150年
高知県
公式ガイドブック
2017年・2018年
vol.2【無料】
志国高知
幕末維新博
時代は土佐の山間より
志の国・高知で
歴史・食・自然を
体感！
第66回
全国へき地教育
研究大会高知大会
第6回　中国・四国地区へき地教育研究大会高知大会
平成29年度 高知県へき地・複式教育研究大会
KOCHI
高知県観光
ガイドマップ
第６６回全国へき地教育研究大会高知大会
第６回中国・四国地区へき地教育研究大会高知大会
平成２９年度高知県へき地・複式教育研究大会
大会スローガン
中山間地域の振興で
へき地教育の新しい未来を!!
参加者名簿
平成２９年１１月１日（水）
２日（木）
第66回 全国へき地教育
研究大会高知大会
大会紀要
高知大会スローガン
中山間地域の振興で
へき地教育の新しい未来を!!
平成29年11月1日(水)～2日(木)
大会高知大会を開催
11月1、2日に高知県で
大会スローガン
中山間地域の振興で へき地教育の新しい未来を!!
大会開催にあたり
田村 壮児
へき地教育新聞
へき地・複式・小規模校のための情報紙

課題別分散会発表校

- 2017年に高知市で開かれた「全国へき地教育研究大会」の全体会の様子を紹介しました。
- 基調講演やアトラクション（子どもたちによる本川神楽の披露）の写真・動画はここではカットします。

- 高知県馬路村立魚梁瀬（やなせ）小中学校での全国へき地教育研究大会分科会の様子を紹介しましたが、ここへの掲載は控えます。

を伸ばす教育、豊かな自然を活用した体験的な学習、家庭や地域と密接な連携をし、さらに協働する教育活動を具現化する研究実践を期待する。

Ⅵ　全国研究大会の開催

この第９次長期５か年研究推進計画の全国大会予定ブロック（県）は、

○　平成３１年度（第６８回）　・・・・　関東甲信越ブロック　・・・長野県

○　平成３２年度（第６９回）　・・・・　東海北陸ブロック・・・・　富山県

○　平成３３年度（第７０回）　・・・・　九州ブロック・・・・・・　宮崎県

○　平成３４年度（第７１回）　・・・・　東北ブロック・・・・・・　山形県

○　平成３５年度（第７２回）　・・・・　近畿ブロック　・・・・・・兵庫県

となっている。

「教育の原点はへき地教育にあり」と言われる。これは、文化的・社会的条件に恵まれていない地域ではあるが、美しい自然や温かな地域住民に囲まれた中で、教師や友達と心を通わせ助け

第9次長期5か年研究推進計画に基づく全へき連研究大会

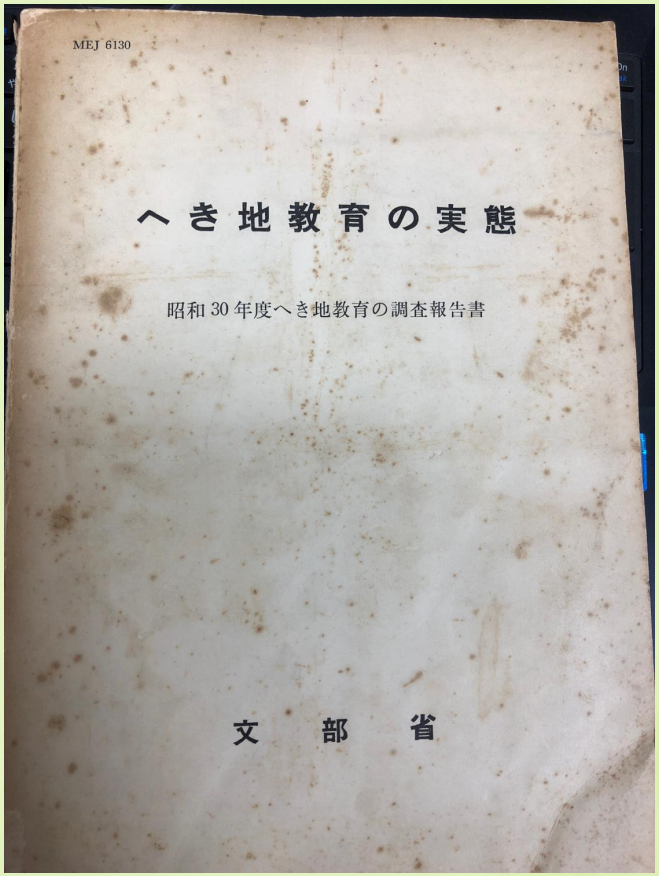
〈分散会発表ローテーション〉

	年度・大会数	31年度・68回	32年度・69回	33年度・70回	34年度・71回	35年度・72回
	研究年次	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
	開催地	長野県	富山県	宮崎県	山形県	兵庫県
	全国及びブロック担当（担当県）	全国割り当て担当ブロック担当県	全国割り当て担当ブロック担当県	全国割り当て担当ブロック担当県	全国割り当て担当ブロック担当県	全国割り当て担当ブロック担当県
学校・学級経営	第1分散会					
	課題1 特色ある教育計画	近畿	北海道	関東甲信越	中国・四国	東海・北陸
		関東甲信越	東海・北陸	九州	東北	近畿
	第2分散会					
	課題2 開かれた学校・学級経営	北海道	九州	中国・四国	東海・北陸	東北
		関東甲信越	東海・北陸	九州	東北	近畿
	第3分散会					
	課題3 豊かな心を育む教育活動	中国・四国	東北	近畿	九州	関東甲信越
		関東甲信越	東海・北陸	九州	東北	近畿
学習指導	第4分散会					
	課題4 個性を重視した指導計画	九州	関東甲信越	東北	近畿	北海道
		関東甲信越	東海・北陸	九州	東北	近畿
	第5分散会					
	課題5 きめ細かな指導方法	東北	近畿	東海・北陸	北海道	中国・四国
		関東甲信越	東海・北陸	九州	東北	近畿
	第6分散会					
	課題6 高め合う学習過程	東海・北陸	中国・四国	北海道	関東甲信越	九州

- 全国～市町村に至るマルチスケールの強固な組織力をもってきた（ただし関係学校数が激減）
- 継続的な大会・研究会の実施

- しかし、関係者以外には、あまりに知られていない
- 「伝統」の重みと確固たる仕組みに起因して、まじめな学校教育関係者の義務感から形式重視で続いている感もあり・・・

文部省
『へき地教育の実態―昭和30年度へき地教育の調査報告書―』


MEJ 6130

へ き 地 教 育 の 実 態

昭和 30 年度へき地教育の調査報告書

文　部　省

SDGsの17目標と
照合してみましょう。

目　　次

頁

I　調査の概要……1

A　調査の目的……1

B　調査対象校の選定条件……

1.　調査対象の種類……

2.　調査対象校の条件……

II　「へき地手当」支給制度の解説　—史的変遷—……

A　都道府県の「へき地手当」支給の法的根拠……

1.　戦後の新給与体系成立当時の「へき地手当」……

2.　「教育公務員特例法」成立当時の「へき地手当」……

3.　現行の「へき地手当」……

a　「地方公務員法」における「へき地手当」……

b　国立学校教員の「へき地手当」……

B　都道府県の「へき地学校指定基準」の形態と内容……

1.　「へき地学校指定基準」設定の形態……

2.　「へき地学校指定基準」の内容……11

III　へき地学校の分布状況……16

1 貧困をなくそう

10 人や国の不平等をなくそう

2. 「へき地学校指定基準」の内容……11

III へき地学校の分布状況……16

A 全学校総数中に占める調査対象校数の割合……16

1. 全　　国……16

2. 都道府県別……17

B 調査対象校数中に占める「へき地手当」支給校の割合……

1. 全　　国……

2. 都道府県別……

C 「へき地手当」金額階級別の「へき地手当」支給校数……

D 交通機関からみたへき地学校の分布……

1. 学校が利用する交通機関の種類別にみた「へき地手当」支給

2. 鉄道駅・バス停留場までの距離別にみた「へき地手当」支給

3. 定期船の運行回数別にみた「へき地手当」支給校……

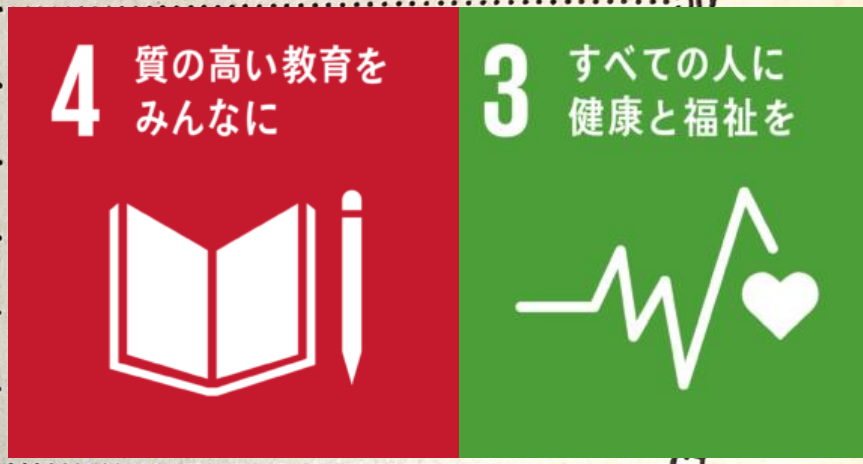
IV へき地学校の教育状況……

A 学校編成の状況……

1 貧困をなくそう

10 人や国の不平等をなくそう

1. 生徒数・学級数……36
a 1学校当り生徒数……36
b 1学校当り学級数……38
2. 学 級 編 成……41
a 1学級当り生徒数……41
b 1学級に編成される学年数別学級数……43
3. 教 員 配 置……45
a 1学校当り本務教員数……45
b 本務教員1人当り生徒数……47
c 養護教員の配置……48
B 生 徒 の 状 況……50
1. 通学距離別生徒数……
2. 疾病罹患状況……
3. 学用品不足状況……
4. 長期欠席者の状況……
5. 上級学校への進学状況……
C 教 員 の 状 況……61
1. 学 歴……61



5. 上級学校への進学状況……59
C 教員の状況……61
1. 学歴……61
2. 免許状……63
3. 勤務年数……66
4. 住居形態……
5. 指導主事の巡回状況……
D 教材・教具の状況……
1. 電気設備……
2. 電話設備……
3. 飲料水の利用状況……
4. 給食設備……
5. 図書および教材の所有状況……
a 図書……
(1) 学習指導要領……
(2) その他の教師用図書……
(3) 生徒用図書……86
b ピアノ・オルガン等の教材……87

V へき地の文化状況 …… 90

A 電燈の普及状況 …… 90

B ラジオの普及状況 …… 91

C 電話の普及状況 …… 93

D 新聞の普及状況 …… 93

E 新聞の遅配状況 …… 94

F 飲料水の利用状況 …… 96

G 県教委所在地からの郵便の到着日数 …… 97

H 社会教育施設の状況 …… 98

VI へき地の隔遠度に関する一考察 ……

A 施設の種類と距離の算定方法 ……

1. 施設の種類 ……

2. 距離の算定方法 ……

B 学校から諸施設までの距離の考察 ……

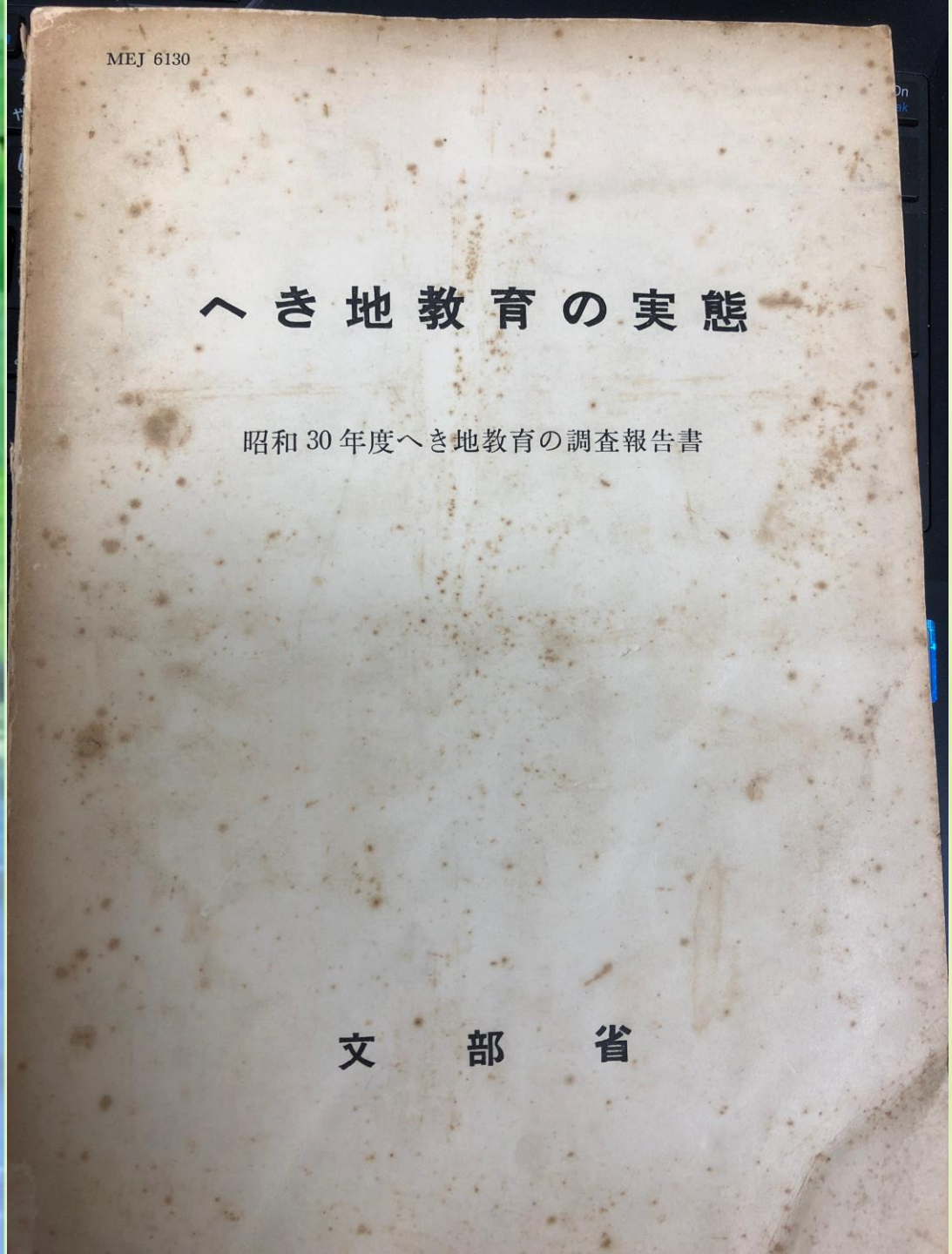
1. 学校から医療機関までの距離 ……

2. 学校から郵便局までの距離 …… 107

3. 学校から役場までの距離 …… 111

4. 学校から中学校までの距離 …… 113

B　学校から諸施設までの距離の考察…… 103
1.　学校から医療機関までの距離……
2.　学校から郵便局までの距離……
3.　学校から役場までの距離……
4.　学校から中学校までの距離……
5.　学校から高等学校までの距離……
6.　学校から諸施設までの距離の総括比較……
7.　学校から諸施設までの合計距離……
C　学校から諸施設までの合計距離と教育・文化状況との関係…… 127
1.　学　校　規　模…… 127
2.　学校所在部落の電燈の有無…… 127
3.　通学区内の飲料水の利用状況……
4.　通学区内のラジオの普及率……
5.　通学区内の電話の普及率……
6.　通学区内の新聞の普及率……
7.　通学区内の新聞の遅配日数……
8.　県教委所在地からの郵便の到着日数……
9.　通学区内における劇場・映画館，病院，高等学校の有無…… 129
統　計　表…… 131



MEJ 6130

へき地教育の実態

昭和30年度へき地教育の調査報告書

文　部　省

当時の「へき地教育の実態」の内容に該当しないSDGs目標

「へき地教育」をめぐる現代的課題

- 御代田・米津・富樫（2018）は、へき地教育実践の現代的課題として、以下の点を挙げている。

①都市部との文化的・教育的条件としての格差がなくなりつつある一方で、地域社会自体の存続という課題が学校の背景に存在している。

②ICT 利用や特別支援教育に関する先行研究から、「インターネット等を通じた接続は可能であっても、学校統廃合や公共交通機関の減少等、過疎化が進行する中で、子ども・父母・教師が直接に専門的知識・専門機関と接することが困難になっている状況」があると指摘している。

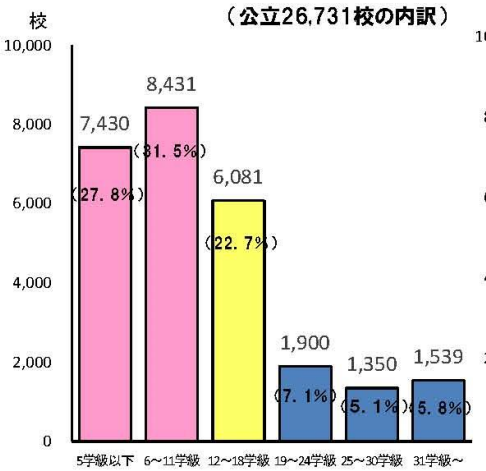
③地域に学校を存続させるために活用されることが多い小規模特認校制度の活用の在り方に触れている。

公立小・中学校の学校規模の推移

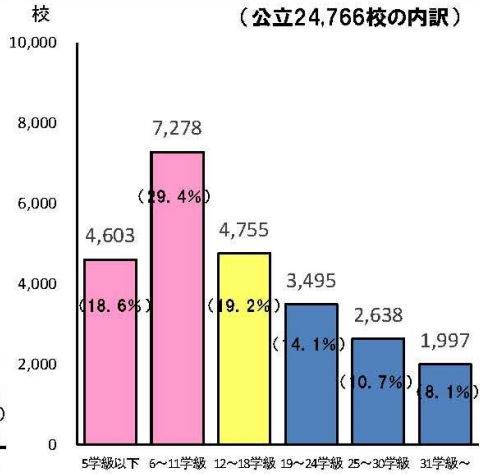
※グラフ中の（　）内の数字は、全体の学校数に占める割合
※本校（公立）のデータ
出典：平成28年度学校基本調査

小学校

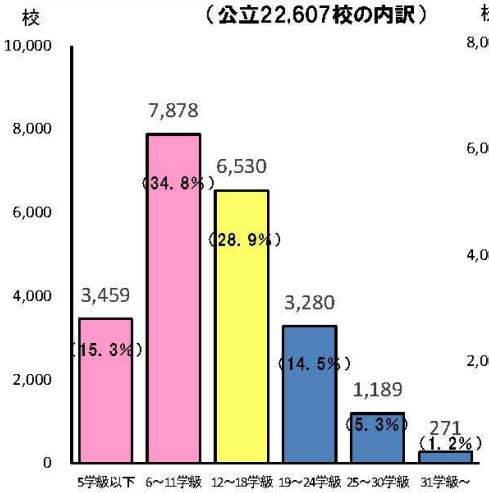
昭和33年度（第1次ベビーブームによる児童数のピーク）



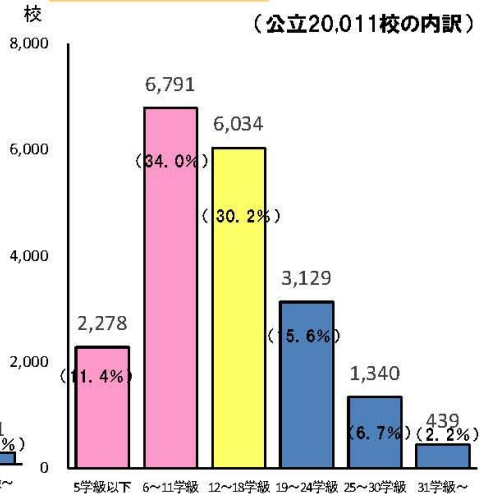
昭和56年度（第2次ベビーブームによる児童数のピーク）



平成18年度

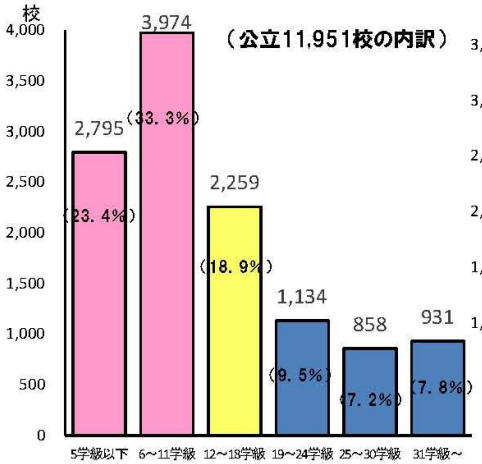


平成28年度

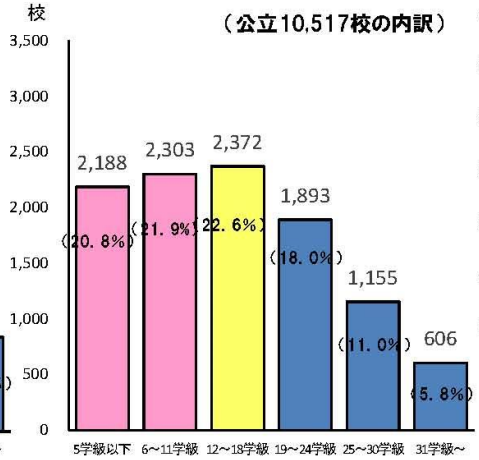


中学校

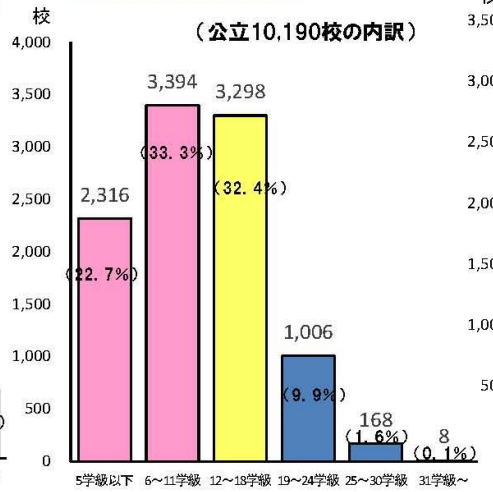
昭和37年度（第1次ベビーブームによる生徒数のピーク）



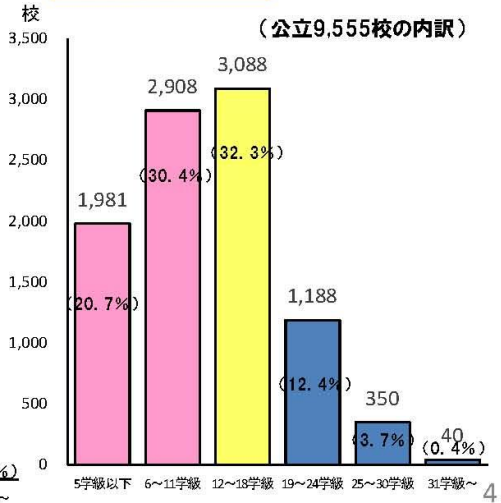
昭和61年度（第2次ベビーブームによる生徒数のピーク）



平成18年度

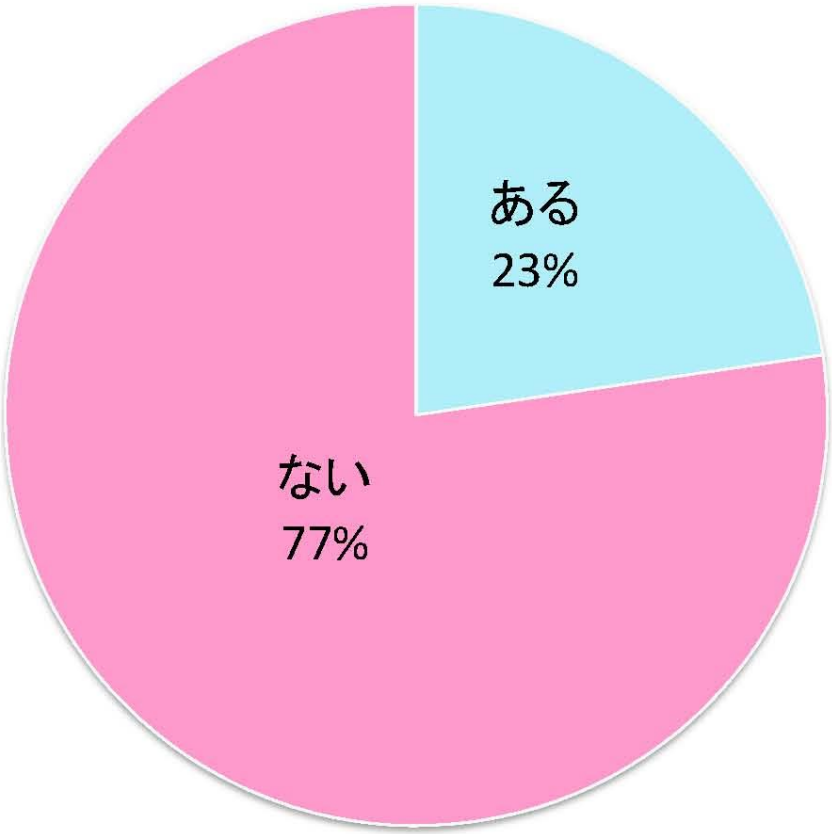


平成28年度



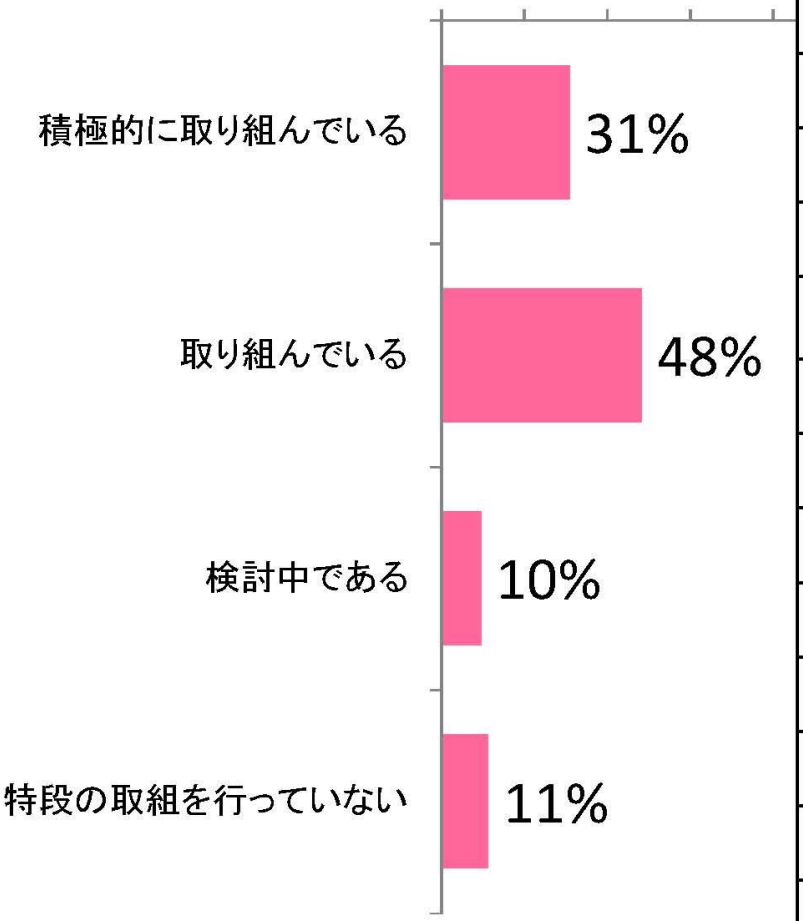
文部科学省（2015）：学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について

地理的な理由等により統合の検討対象とすることが困難な小規模校の存在



文部科学省（2015）：学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について

地理的理由で統合が困難な小規模校のメリット最大化方策

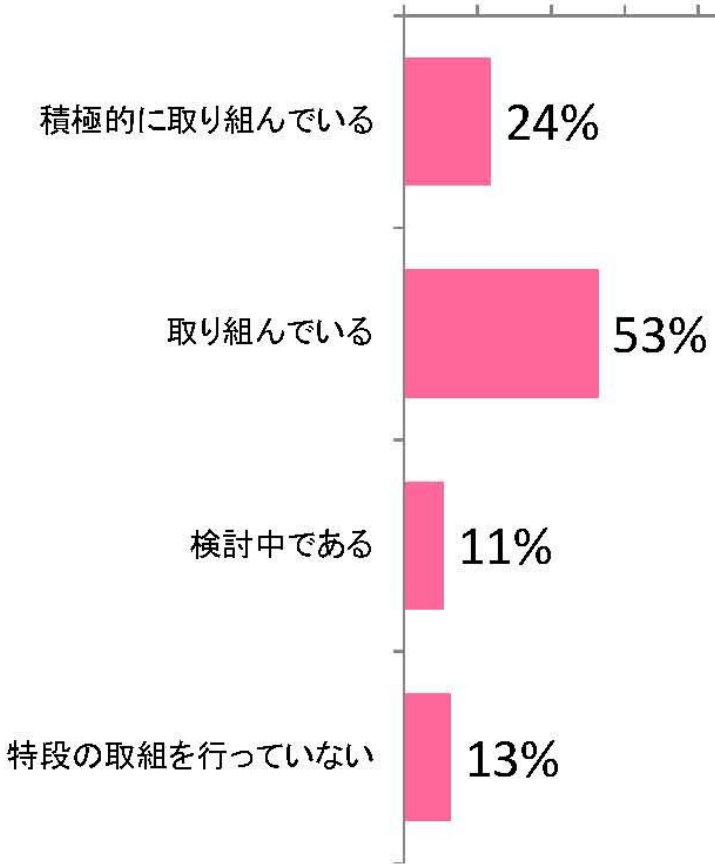


	1 当てはまる	2 取組を検討中	3 当てはまらない
① 授業でのきめ細かな指導や放課後や長期休業中の補習等を徹底し、全員に一定レベルの基礎学力を保障	73.6%	9.0%	17.1%
② 一人あたりの運動時間を確保できることを生かして高い体力レベルを実現	34.9%	19.8%	45.2%
③ 学年の枠を超えた習熟度別指導を行っている	21.4%	12.6%	66.1%
④ 意図的に全員に様々な役職を経験させている	61.1%	8.3%	30.7%
⑤ 年間を通じて地域人材を活用した郷土学習を実施	82.2%	5.5%	12.3%
⑥ 総合的な学習の時間などで個に応じた学習課題を設定	56.5%	12.8%	30.4%
⑦ 通常個別指導の徹底が難しいといわれる教育活動（スピーチ、外国語の発音指導等）できめ細かな指導を実施	58.0%	14.1%	27.9%
⑧ 親密な人間関係を生かして踏み込んだ意見交換をさせている	51.0%	14.3%	34.7%
⑨ 市区町村補助により校外学習・修学旅行などを充実	41.0%	4.0%	55.0%
⑩ 市区町村補助により短期留学やホームステイなどを実現	11.3%	4.0%	84.7%
⑪ 教育課程の特例の設定を可能とする制度を利用して特色ある取組を実施	16.1%	9.3%	74.6%
⑫ 小規模特認校制度を導入している	18.3%	5.0%	76.6%
⑬ その他	6.5%	0.8%	37.4%

N=398（地理的理由で統合が困難な小規模があると回答している市区町村）

文部科学省（2015）：学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について

地理的理由で統合が困難な小規模校のデメリット最小化方策

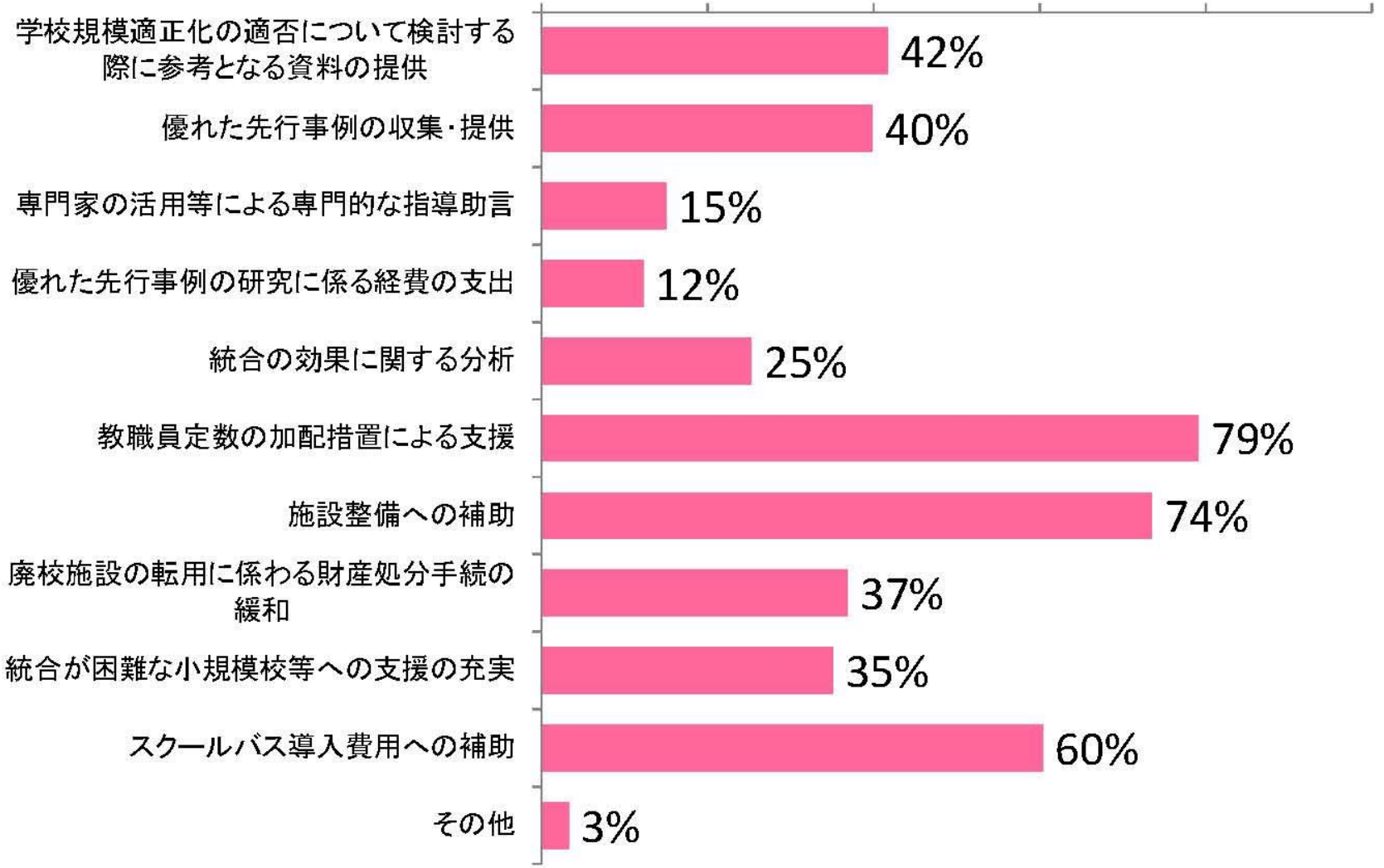


N=398（地理的理由で統合が困難な小規模校を有している市区町村）

	1 当てはまる	2 取組を検討中	3 当てはまらない
⑭ 学校間で年間を通じて学校行事を合同実施	47.5%	9.5%	43.0%
⑮ 学校間ネットワークを構築し、単元毎に最適な規模の学習集団を編成	9.3%	13.6%	77.1%
⑯ 学校間でICTを活用した合同教育活動を年間を通じて実施	11.8%	19.6%	68.6%
⑰ 小・中学校の合同教育活動を年間を通じて実施	51.8%	9.8%	38.4%
⑱ 小中一貫教育を導入し集団規模を維持	18.3%	16.8%	64.8%
⑲ 分校生徒が一定期間継続して本校に通う取組を実施	1.0%	0.8%	98.2%
⑳ 社会性を育成するため異年齢での通学合宿を実施	13.3%	3.0%	83.7%
㉑ 地域人材の活用を促進し社会性育成に資するため、コミュニティ・スクールを導入	19.6%	16.1%	64.3%
㉒ 地域人材の活用を促進し社会性育成に資するため、地域学校協働本部を導入	21.6%	8.8%	69.6%
㉓ 放課後の異年齢交流や体験・学習活動の充実のため、放課後子供教室を実施	37.9%	10.8%	51.3%
㉔ 社会教育で相当量のプログラムを計画的に実施	18.1%	8.8%	73.1%
㉕ 山村留学・離島留学等の受け入れにより集団規模を維持	8.8%	6.5%	84.7%
㉖ 社会教育施設との合築による社会性育成機能の強化	5.0%	7.3%	87.7%
㉗ 幼稚園・保育所との合築による社会性育成機能の強化	13.6%	8.3%	78.1%
㉘ 福祉施設との合築による社会性育成機能の強化	5.0%	5.0%	89.9%
㉙ 学校間で兼務発令を行い、教科免許保有者による指導を担保	34.9%	7.5%	57.5%
㉚ 複数学校間で教科等の専門性を生かした教員の巡回指導システムを導入	10.8%	9.5%	79.6%
㉛ 余裕教室を地域に積極的に開放し地域連携を強化	13.1%	14.1%	72.9%
㉜ 小規模校同士で合同の校内研修を実施	37.4%	12.8%	49.7%
㉝ 学校間で教材・教具・施設・設備等を共同利用	24.4%	11.8%	63.8%
㉞ 学校図書館・学級文庫の蔵書の学校間共同利用（定期的な図書の循環システム）	15.6%	13.6%	70.9%
㉟ 複数校間で学校事務を共同実施	49.2%	5.5%	45.2%
㊱ 追加的な人的措置による複式学級の解消	32.7%	4.5%	62.8%
㊲ その他	4.8%	1.3%	38.2%

文部科学省（2015）：学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について

学校規模の適正化に関して国に望む支援



N=1755（全市区町村）※複数回答

文部科学省（2015）：学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について

2017年3月に閉校した奈良県吉野郡十津川村立西川第二小学校

2018年3月に閉校した奈良県吉野郡天川村立洞川中学校

2017年4月に3校統合により設置された奈良県吉野郡十津川村立十津川第二小学校（2018年5月）

Ⅲ 「へき地教育」の持続に向けて

１．沖縄県国頭村の事例を中心に

国頭村立奥小学校（2017年3月）。
2004年3月までは中学校も併設されていた。

豊かな自然と時間がある　やんばる

くにがみ

沖縄県　国頭村

研究目的

- 地域多様性を守り育む学校教育システムとして沖縄県国頭郡国頭村の事例を把握する。

なぜ国頭村？

- 5つあるへき地小規模校（いずれも小学校）で学ぶ魅力を高めつつ、規模の比較的大きな2つの小学校や1校に統合されている中学校をも含めた教育システムを構築し、学力向上を含むさまざまな成果を出している。

- 学校の統廃合が地域多様性の観点からマイナス要因となることも多い中、本事例は全国的に持続可能なへき地教育の体系を構築していくためのヒントとなり得る

北国小
奥小
旧辺野喜分校（佐手小）
旧楚洲小
佐手小
国頭村
国頭中
辺土名小
国頭郡
安田小
奥間小
安波小
宜名真ダム
辺野喜ダム
普久川ダム
安波ダム
新川ダム
沖縄諸島
(m)
1k
2k
3k
カシミール3D　国土地理院

国頭村立小中学校の在籍児童・生徒数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計
北国小	0	0	1	1	0	0	0	2
奥小	1	1	2	1	6	0	1	12
佐手小	0	2	1	3	1	3	0	10
安田小	1	0	0	2	1	5	0	9
安波小	1	0	1	2	4	1	0	9
辺土名小	19	26	21	22	26	25	2	141
奥間小	13	16	15	17	18	11	1	91
小学校計	35	45	41	48	56	45	4	274
国頭中	43	40	60				3	146

2017年3月31日現在。国頭村教育委員会の資料を用いて作成。

開かれた学校づくりの取り組み

開かれた学校づくりに関して3つの特徴が明らかになった。

① 学校だより

- 子どものいるPTA会員のほか、全世帯に配布
- 小学生がいない家庭もPTAの準会員
- 学校側が区長に渡し、各区で全世帯配布
- 村教育委員会、JA、地域の事業所にも配布
- 地域の掲示板にも貼っている
- 頻度

・・・佐手小学校では月1回に加えて運動会などの大きな行事ごとに作成

- 学校だよりの例を紹介しましたが、ここへの掲載は控えます。

開かれた学校づくりの取り組み

② ウェブサイト

- 教務が担当し、月に数回更新
- 学校によっては、校長自らが主に更新を行い、山村留学希望者へのアピール・情報提供にも

- 北国小学校には、2017年に愛媛県から児童が転入

「県外から転入生を迎えるのは、ここ数十年なかったのではないかと思っています」と学校だよりでも

国頭村立
安波小学校

学校所在地

国頭村字安波６０１番地
ＴＥＬ　0980-41-7556
ＦＡＸ　0980-41-7558

お知らせ

- 2017.09.27 平成２９年度　校内童話・お話大会
- 2017.09.25 安波ダム祭り
- 2017.09.12 平成29年度　みんなでつくった大運動会
- 2017.09.09 運動会練習
- 2017.08.31 2学期始業式

国頭村立
北国小学校

学校所在地

国頭村宜名真５３５番地
ＴＥＬ　0980-41-8966
ＦＡＸ　0980-41-8967

お知らせ

- 2017.09.21 パイナップル収穫体験
- 2017.09.15 Ｈ２９年度運動会
- 2017.08.31 ８月のヤンバルクイナプレイバック調査
- 2017.08.27 8月ＰＴＡ作業　＆　卓球レク
- 2017.08.27 8月　ミニバスケット交流　ＮＯ．２

開かれた学校づくりの取り組み

③ 地域行事等への教職員の参加

- 豊年祭や敬老会などに積極的に参加
- 地域住民も運動会をはじめ学校行事に協力的で、学校と地域で連携する仕組みができている

国頭村立
奥小学校

近日行事

- 2017年9月30日出校日（運動会前日準備）
- 2017年10月1日第７０回運動会
- 2017年10月5日奥川資質調査
- 2017年10月19日修学旅行①
- 2017年10月20日修学旅行②

学校所在地

〒905－１５０１
国頭村字奥313番地
TEL：（0980）41-8110

お知らせ

- 2017.09.28 学校茶道のお稽古パート３
- 2017.09.25 PTA作業がありました
- 2017.09.25 研究授業①
- 2017.09.21 いかのおすし訓練
- 2017.09.21 学校保健委員会
- 2017.09.13 学校茶道のお稽古パート２
- 2017.09.08 奥区行事「シヌグ」フーヨーサレーに参加しました
- 2017.09.06 学校茶道のお稽古が始まりました！！
- 2017.09.02 校内童話お話大会
- 2017.09.01 学校便り５号「和顔愛語」を追加しました。

学校間連携の取り組み

④ 修学旅行

- 西3校合同で修学旅行を実施
- 2016年度は、6名の児童を9名の教職員が引率して那覇に1泊した

村内の小学校、とりわけへき地5校では、学校同士が協力してさまざまな連携を実施

⇒　・子どもたちの学習環境をよりよく
　　・教員自身の研究の場ともなっている

「学びの共同体」理念の導入

- 2011年度に国頭中の校長が学力の底上げを図りたいと考えたことが契機。
- 国頭村教育委員会の指導主事が、佐藤学氏（東京大学名誉教授・学習院大学教授）による「学びの共同体」の理念を取り入れ、教育を推進。
- 2012年度より国頭中を拠点校として、その教育理念の理解を図るために村内全小中学校の教員を対象に講演会や研修会を開始。それを受けて他校でも研修会を実施するなど全村的に拡大。
- その結果、全国学力調査において大幅に成績が向上。小中学校間も含めた学校間連携もよりよく進められるようになった。

「学びの共同体」の取り組み

- 学力問題をきっかけに「学びの共同体」を導入したが、現在学力は気にしていないとの話は、今回聞き取りをした教育委員会や各小学校でもしばしば耳にした。

- これは、同僚性が教師間で築かれ、校長の理念も共有されて、教師がお互いに授業を支え合ってよりよくなってきたという自覚が教職員に芽生えたためともいえる。

- 「学びの共同体」理念の特徴は教師の同僚性構築。国頭村の取り組みもその考え方が理解されて定着。

- 合同授業、集合学習、交流学習も、こうした理念のもとで実施され、村全体として教師の同僚性構築に寄与したと考えられる。

- 「学びの共同体」の取り組みの詳細と、授業の様子などの写真の掲載は、ここでは控えます。

へき地校を存続・充実させる工夫

- 方法面　・・・合同授業、集合学習、交流学習など
- 内容面　・・・「学びの共同体」理念の導入、地域学習副読本編集の工夫
- 制度面

・合同授業等には学校間の移動手段が必要なため、へき地5校には学校名義の車がある。その維持のために、チャリティを行っている。

・沖縄の教員異動制度では、初任者の1校目は大規模校で、2校目はへき地・離島に勤務。1校での在職期間は3年。校長・教頭試験の受験には、へき地校勤務経験が必須。

小括

- 国頭村の事例からは、小規模へき地校のよさを活かし地域多様性を持続させるには、
各校・校区の自助努力にゆだねるのではなく、
行政や教育委員会が小規模へき地校やそれが存在する地域の価値をきちんと理解したうえで、
それらを維持・発展させる教育システムを構築することが重要と言える。

国頭村と大宜味村の地域学習

- 国頭村はへき地校を残しつつ、「学びの共同体」によって体系的な教育方法に取り組んでいるが、その中に地域学習があまり位置づけられていない。

- 一方、隣村の大宜味村は学校統廃合を進め、村内一小中学校とし、多くの集落から学校がなくなってしまったが、統合前の各小学校で実施していた地域学習についてはクラブ活動の時間を使って取り組むことにより、旧校区・集落に関する学習内容について学び合う工夫をしている。

奥間小学校における地域学習の展開状況

地域的区分	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
校区に関わる活動	①安全マップ作成、②遠足（森林公園）	クラブ活動開始（郷土クラブ）	スイカ寄贈受ける					①地震・津波避難訓練（森林公園へ）、②学習発表会（４年：奥間区獅子舞）、③漁業体験（５年）	老人ホーム訪問（４年：獅子舞等、５年：うちなーぐち）			創立記念発表（５年：奥間小の歴史等）
国頭村に関わる活動			辺士名消防署見学			交流学習（へき地５校児童来校）		学習発表会（６年：村の伝統文化等）				
沖縄島北部に関わる活動								大宜味シークワーサーパーク工場見学（３年）				
沖縄島に関わる活動								修学旅行（６年）				
沖縄県に関わる活動		①クラブ活動開始（三線クラブ等）、②シーサー作り（1、2年）、③サンゴアート（6年）	①パプリカ、ナス栽培に関わる活動、 ②平和集会			運動会でエイサーを演舞		学習発表会（クラブ：三線演奏、４年：芭蕉布体験、５年：うちなーぐち）		①琉球交響楽団来校・読み聞かせ演奏会、②カーサームーチー作り（1・2年）	田イモ収穫と調理（４年）	
国内交流・国際交流			ペルーからの留学生による外国語学習（5,6年）				鳥取県岩美町交流団来訪・交流					

奥間小学校の2017年度学校便りをもと岩本作成

奥小学校における地域学習の展開状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
校区に関わる活動	奥川水質及び水生生物調査（予告）	①鯉のぼり祭りに出場（カレンダー作り等）、②魚さばき体験、③ごみ・ゼロ運動への参加（清掃活動）	奥川水質及び水生生物調査（２回目）			奥の伝統行事大シヌグ（五穀豊穣や無病息災を祈願）に参加	奥川水質及び水生生物調査の結果を水シンポジウムで発表	奥区慰霊祭に参加（祖先を敬う）			ヤンバルクイナ生息調査	①茶摘み・製茶体験、②地域で環境等の看板設置
国頭村に関わる活動		春の遠足（５校合同、辺野喜ダムの公園）	交流学習（辺士名小）			交流学習（奥間小）						
沖縄島北部に関わる活動									社会科見学（名護警察署ほか、キャリア教育を兼ねる）			
沖縄島に関わる活動							①修学旅行（沖縄島南部、６年）、②水シンポジウムに参加					
沖縄県に関わる活動		鯉のぼり祭りに出場（エイサー）	ＪＡおきなわからシークワーサー寄贈	離島体験交流に参加（多良間島、５年）			運動会でエイサーを演舞					ジャガイモ収穫
国内交流・国際交流			神奈川大学吹奏楽部演奏			学校茶道学習会			学校茶道交流茶会	①国際交流員（中国、韓国等）との交流、世界の料理教室、②鳥取県岩美町訪問（6年）		

奥小学校の2017年学校便りをもとに岩本作成

- 奥小学校の全児童が地域の歌「奥村」を高齢者への聞き取りや文献から復活させたことを報じる2015年12月9日付の琉球新報の記事を紹介しました。

大宜味村立大宜味小学校

- 2016年度に村内４小を１小に統合
- 中学校も同一敷地内（一貫校化はしていない）
- 地域学習は主に、総合的な学習の時間、特別活動、社会科で展開

大宜味小の総合的な学習の時間

- 全体テーマ　＝「世界に発信！大宜味村の宝物！！」

- ねらい

①大宜味村のことについて、残したいこと伝えたいこと（課題）を自ら見つけ、主体的に追求する態度を育てる。

②追究したことを豊かに表現し、わかりやすく伝える力を育てる。

③地域の人々や社会・自然との出会いを通して、郷土愛や愛校心など豊かな心と社会性を育てる。

④国際社会に目を向け、外国の伝統・文化や外国の人との関わりに関心を持つ態度を育てる。

- 大宜味村の4つのキーワードについて探究的な学習

3年生はシークヮーサー、

4年生は芭蕉布、

5年生は長寿、

6年生はぶながや（文化・歴史・自然）

大宜味小の特別活動

- 4年生以上が年間20時間のクラブ活動を実施し、その中で統合前の喜如嘉小学校、大宜味小学校、塩屋小学校、津波小学校の4校で取り組んできた地域学習を可能な範囲で継承すべく努力している。これは、統合後もやめずに継続してほしいとする地元からの要望を受けたためであった。具体的な例として、自然観察クラブをつくり、喜如嘉小学校や塩屋小学校で取り組んできた野鳥や蝶の観察を行うといった方法で実施していることがあげられる。

- 同校では、クラブ活動において月1回程度の実施を年20回確保して充実させる工夫をしている。毎年2月には、きらめき発表会というクラブ活動の成果発表会を実施している。体育系クラブをなくし、舞台で発表できる文化系クラブに特化することで、これまでの地域学習を残せるようにした。

2. へき地学校におけるESD展開の現状

ESDとへき地教育をつなぐ研究は少ない

- へき地小規模校向けにフード・マイレージに関するESD教材開発を行った小野・菊地・籏ほか（2016）
- へき地小規模校を維持・発展させる教育システムの事例を扱った河本・板橋・岩本（2016）
- 地域の持続可能な産業の教材化と授業実践を行った伊畑・髙嶋・奥山ほか（2017）
- 離島や山間地を外部の者の学びの場とした実践事例や、学校の維持・統廃合・小規模化や学校運営に関わる研究…小野・伊藤・室貴ほか（2008）、高野（2013）

- 全国のユネスコスクール認定小学校572校の5.8%、同中学校359校の4.2%がへき地学校等

- へき地学校等の1.5%がユネスコスクール

…文部科学省の平成30年度学校基本調査（速報値）によると、2018年5月1日現在、全国の小学校と義務教育学校の合計は19,974校、中学校と義務教育学校の合計は10,352校。それらに占めるユネスコスクールの割合はそれぞれ2.9%と3.5%。

⇒　このことから、へき地にはユネスコスクールとして認定されている学校が相対的に少ないことがわかる。

３．体系的な地域学習システムの構築とその効果

～京都府南丹市美山町の事例から

奈良教育大学附属中学校ESDカレンダー

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
国語	F 他者とのコミュニケーションを行う（詩・短歌・俳句での表現）					情報の収集・吟味・活用		多面
	F 情報を整理し、活用する能力		F 読書紹介をする			ABD 物語（平和） 記録（環境） 古文・解説（多文化共生）		
数学	奈良と曽爾の気温の比較 A F		A F 世界の平均気温のトレンドをもとに未来の環境を予測					
英語			D 自国文化理解と紹介 A エネルギー問題			D 外国の文化・歴史を知る		E 障害とス
社会	A C 地理学入門 奈良めぐり事前指導 地形図 読図 自然環境		C 日本の諸地域 九州 ～ 近畿			日本の諸地域 中部 ～北海道		D 世界の諸地 アメリカ・ヨーロ（社会見学事
理科	A 植物の生活と種類（曽爾の植物のスケッチ）（生物の多様性や共生のしくみ）			身近な物理現象				AF 身の回りの物質（生活と自然環境に関心を 環境問題に積極的に取り
総合的な学習	AD 事前学習	曽爾高原野外活動	事後学習（ルートマップ）		GD 公州交流学習	D 国際理解学習（留学生との E 障害理解学習（5組交流会		D 社会見学（
	C 奈良めぐり（平城宮跡）							
特別活動生徒会			F 行事報告会 文化のつどいに向けて スポーツデイ			F 学級読書会 文化のつどい		
道徳		野外活動を通して						B 平和の
技術	A 材料と加工技術					F 基礎技能（他者との協力）		

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

京都府南丹市立美山小・中学校

- 南丹市北端の美山町
- 小学校は2016年に美山町内5校の統合により設立
- 134名

- 中学校61名
- 学力レベルが高い

- （校内の写真はカットします。）

自然・歴史・もの

1 常盤池
7 こぶしの里
11 かやぶきの里
かやぶき資料館
23 知井保育所
24 知井ふれあ
8 岩江戸公園
22 おもしろ農民倶楽部
25 八坂神
2 育成苑
3 大野ダム
4 4 4 弓立牧場
5 みやま保育所
10 お店探検
11 美山図書室
9 園部消防署 美山出張所
26 長谷井堰
19 安上水路
20 美山牛乳
12 光照寺
14 城山
16 あゆみ工房
6 給食センター
13 城山浄化センター
15 静原第二浄水場
17 17 やすらぎホーム
18 ふらっと美山
頭巾山 ▲871m
長尾ケ岳 ▲917m
白尾山 ▲748m
平屋富士 ▲467m
八ケ峯 ▲800m
芦生研究林
三国岳 ▲954m
天狗岳 ▲921m
品谷山 ▲881m
鬼ハ丁山 752
大野ダム
静原
九鬼ケ坂
高野
知見
田歌
芦生
河内谷
京都市
右京区 京北
周山街道
学年とシールの色
1年生
2年生
3年生
4年生
5年生
6年生
全校

美山学９年間の構想図

地域のよさを発見する学習

＊自ら課題を見出し、課題を解決する力
＊自らの考えや願いや思いを伝える力
＊自然、文化、歴史、産業に関する理解
＊「美山」を愛する心
＝美山の一員としての自覚の芽生え＝

小学校１年:学校探検や地域の行事を通して、美山の里の人々の存在に気付く。

小学校２年：地域探検や地域の行事を通して四季の移り変わりを感じながら自然とかかわる。

小学校３年：美山のお宝探訪を行い、いろんな人と接し「美山」の魅力に触れる。

小学校４年：福祉・環境、高齢化社会に即してお年寄りや保育園児とのふれあい、ゴミ問題、水路など先人の努力から現代社会を考える。

自分のよさや可能性を発見する学習

＊人間関係を豊かにする力
＊情報を精選し活用する力
＊勤労や職業に関して理解する力
＝自己肯定感・自己有用感の高まり＝

小１～小2:意欲と自信をもって活動

小１：地域の方とのふれあい活動により達成感や成就感を味わい、自分への自信につなげます。

小２：野菜栽培等により達成感や成就感を味わい、自分への自信につなげます。

小３～小４：自分のよさや役割を自覚

小３：地域の方との交流会等の計画・運営により自分のよさや役割に気付いていきます。

小４：地域の美化活動やふれあい活動等により自分のよさや役割に気付いていきます。

小学校５年：農業・産業、美山の特色ある農業について体験、聞き調べを行い、これからのよりよい農業や産業に生かす

小学校６年：「美山の歴史」を調べ、地域の伝統文化、伝統産業、先人の業績を知り、これからの美山を考える。

中学校：伝承・継承・創造
（小学校の学びをつなぎ・広め・深める）
美山の良さを再認識し、その上で課題に向き合い、地域の行事やイベントへの参加・参画や考案した企画を提案・実践する活動を通して、より深く地域に関わり、地域の活性化に貢献する。

小５～小６：役立つ喜びを感じ、自分を生かす

小５：米作り・農業体験により勤労の尊さを実感し集団の中での役立つ自分の存在に気付きます。

小６：夢探しや美山の地域興し活動への関わりによりこれからの自分に目を向け、可能性を信じ、歩みます。

中１～中２職業観と勤労観を持つ

中１：集団活動やボランティア活動により仲間との協力や集団の一員としての自分を見つめ生き方につなげます。

中２：職場体験等により、働くことや生きることの意味を考え、これからの自分の生き方を考えます。

中３　自己実現に向けて歩み出す

中３：様々な体験や進路講話・進路選択等により自己実現に向けて歩み出します。

美山小学校　平成２９年度「美山学」実践記録一覧

小学校	国語科	社会科	総合的な学習の時間（4・5・6年） 生活科（1・2年）	理科	道徳（地域教材） および障がい者理解教育	その他
1年			5月えんどう豆の収穫　岩瀬周策さん 5月美山ストア・梶原商店・フレッシュムラタ・ ヤマヨ・すぎもと美容室		（障がい者理解教育） やすらぎホーム	図工）写生 弓立牧場
2年			5月トマト苗植え　倉内規美子さん、山内冨美子さん 5月茶摘み　菅生紀代子さん 6月さつまいも苗植え　農業委員会 9月蚕の話　下野良二さん		道徳） 10月上げ松　神田和行さん 11月自然　河野啓介さん	
3年		昔の暮らし」 2月かやぶき資料館	美山のお宝発見！」 ・美山町で昔から続いている伝統芸能 6月上げ松　鶴ヶ岡）神田和行さん 7月田歌神楽　長野宇規さん、高野美好さん ・美山町の特産品 11月ゆう豆、萱野こんにゃく工場、 下吉田みそグループ 2月大内かぶら　渋谷清孝さん		障がい者理解教育） 1月あゆみ工房	
4年		暮らしを守る」 5月美山消防出張所 住みよい暮らしを作る」 6月　浄水場、下水処理場 郷土の発展につくす」 11月長谷井堰　菅生健さん 1月大野ダム	笑顔まごころお届けし隊」 みやま保育所 こぶしの里、知井ふれあいホーム		障がい者理解教育） 10月こぶしの里、 知井ふれあいホーム	図工）木工 北桑田高校森林リサーチ科
5年		米作り」 田植え・稲刈り・脱穀 武田義史さん・川勝政義さん JA美山支店　大萱聡さん 工業」 美山興業	美山の農業」 ホンモロコ養殖　大棚勤さん 農業　外田憲さん、岩瀬このみさん、東智也さん、米山政郎さん 国際交流」 美山DMO高御堂和華さん、川勝秀華さん、ウベ・ワルターさん ホームステイ」 岩瀬周策さん、中野弘子さん、坂本宗さん、木戸広史さん、山内利一さん、 武田義史さん、中藤講さん、神田和行さん、小寺萱彦さん、尾上逸夫さん Web交流活動」 海士町海士小　5・6年			家庭） お弁当の日」 食生活改善グループ
6年		日本の歴史」 6月城山・光照寺　北川正雄さん	自分の世界を広げ、未来を創り出そう・美山ブランドシール」 美山ふるさと株式会社　奥本浩二さん 田歌舎、江和ランド、澤田利通さん、岩瀬このみさん、大石酒造、かやぶきの里、美卵、 河鹿荘、悠々ひろば、おもしろ農民クラブ、外田養鶏場、三崎正子さん、渋谷清孝さん、 木戸さつきさん、民宿みやま、えびさか養鶏場、上田武司さん、大西勇さん、ゑびす屋 えびさか大福、左近幸男さん、しゃぐなげグループ、三色すみれ、中西知さん、タナセン		道徳） 3月大内かぶら　渋谷清孝さん 障がい者理解教育） 育成苑訪問・交流	家庭） お弁当の日」 食生活改善グループ 学活） 卒業制作」 小沢圭祐さん
校の	☆読み聞かせボランティア「よむよむ」 ・毎週月曜日の朝　読み聞かせ ・年間2回　土曜活用 読み聞かせスペシャル		☆1年生歓迎遠足 知井　北村方面			環境委員会） ビオラ苗植え 坂本二三恵さん、木戸信子さん ゴーヤ苗植え　北桑田高校

南丹市立美山小学校

平成３０年度　＜４年＞　美山学カリキュラム

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
国語	新聞を作ろう（６）									手と心でよむ（７）		
社会	くらしを守る（６） ～火事からくらしを守る～ 住みよいくらしをつくる（６）					きょう土のはってんにつくす（１０）						
総合的な学習の時間	美山・笑顔まごころおとどけし隊 笑顔まごころおとどけし隊 ①オリエンテーション（１） ②美山の福祉について（２） 「福祉について」 ③保育所での交流準備（６） 内容決定・グループ分け 準備・１年生と練習 低学年へ読み聞かせ練習 ④保育所交流（５） 知井保育所 みやま保育所 ⑤活動内容のまとめ（２）					①高齢者の福祉施設について（１） ②高齢者の方との交流準備 グループ分け・内容決定 準備・練習（６） こぶしの里 知井ふれあいホーム ③活動内容のまとめ（５） ④発表会をする（２）				みんなにやさしいまちづくり ①オリエンテーション（１） ②ボランティア活動（４） ③目が不自由な人の生活について（２） ④耳が不自由な人の生活について（２） ⑤車椅子を必要とする人の生活について（２） ⑥活動内容をまとめる（７） ⑧発表会をする。（２）		
道徳						ぼくらの田んぼ				下流を守る大野ダム		
特活	１年歓迎遠足		学年活動						学習発表会			
地域資源	旧大野小学校 静原第二浄水場 園部消防署美山出張所 城山浄化センター 読書ボランティア（芦田さん、下伊豆さん、小畑さん、井上さん）		旧鶴ケ岡小学校			赤ずきんさん「お菊物語」 知井水路長野光孝さん 鶴ケ岡水路上田純子さん				大野ダム		

平成３０年度　＜５年＞　美山学カリキュラム

南丹市立美山小学校

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
国語			次への一歩ー活動報告書 敬語(2)			明日をつくるわたしたち（１４）				学習したことを生かして書こう（２）		
社会	わたしたちの生活と食料生産(13)					水産業のさかんな地域（７）		わたしたちの生活と工業生産(21)		わたしたちの生活と森林（６）		
総合的な学習の時間	美山の農業について知ろう ①オリエンテーション（1） ②農業について（2） ③テーマ設定・体験準備（5） ④調べる・見学・インタビュー（3） ⑤まとめ・整理・分析・発信準備 ⑥発表会（2） ⑦振り返り（1） ※田植え（2）				美山の漁業・工業について知ろう ①課題設定（1） ②見学の準備（2） ③調べる・見学・インタビュー（2） ④まとめ・整理・分析・発信の準備（3） ⑤交流（1） ⑥振り返り（1） ※稲刈り・脱穀（4）				美山の林業・観光業について知ろう ①課題設定（1） ②見学の準備（2） ③調べる・見学・インタビュー（4） ④まとめ・整理・分析・発信準備（5） ⑤交流・振り返り（2）			
道徳	ベニバナヤマシャクヤクの里						かえってきたホタル					
特活	１年歓迎遠足								学習発表会			
地域資源	酪農の話 河野さん 養鶏の話 中島さん ネギの話 大牧さん ブルーベリーの話 渋谷さん ベニバナヤマシャクヤク保存会 栢下さん 田植え・稲刈り・脱穀　川勝政義さん　武田利津子さん							工場見学	漁業協同組合見学	森林組合見学	ビジターセンター見学	

ギョ　ギョ　ギョ　ギョ「美山のステキ　再発見！」

- 京都府南丹市立美山中学校第2学年の進路学習のまとめ『働くこと・生きること　～職場体験／起業体験で学んだこと・身につけた力』を紹介しました。

聞き書き文集

美山に生きる

第十四集

平成二十九年度　南丹市立美山中学校三年生

～総合的な学習の時間の取組から～

聞き書き文集

美山に生きる

第十三集

平成28年度　南丹市立美山中学校　三学年

～「総合的な学習の時間」の取組～

- 前のスライドの聞き書き文集を紹介しました。
- 地域観光ガイドを担うことを地域学習の総まとめとしている、京都府伊根町立伊根中学校の地域学習の取組についても簡単に紹介しました。

へき地教育に対する社会的認識

- へき地教育についてツイートしても反応が薄い
- 自分事になる人が少ないから？

- 学校教育の世界でもマイナーな存在。
- 学級経営と学習指導の改善だけでは未来は拓けそうにない。。

へき地教育を積極的にとらえ、対応できる教員の養成

「へき地教育」を持続可能にするために必要なこと＝研究課題

- へき地教育にかかる法制度の維持・発展
  - 農村地域と小規模校の存在をよしとする国民的合意
  - 小規模のデメリット克服の工夫とその共有を楽しく！
  - スクールバス等による遠距離通学をメリット化したい
- 学校の形態別に効果を検証
- 育みたい資質・能力を考えた地域学習体系と、それを支える仕組みの構築
  - 言語活動を重視し、学力保障
    …地域学習は「余計なこと」ではない
  - 教員の働き方改革と連動させること
    …地域社会との協働体制で教員の負担感を減らすこと

参考文献（私たちの研究成果から）

- 河本大地・板橋孝幸・岩本廣美（2017）：**へき地小規模校を維持・発展させる沖縄県国頭村の教育システム―持続可能なへき地教育の体系の構築に向けて―．** 奈良教育大学紀要，66，pp.53-61．
  http://hdl.handle.net/10105/00012908

- 板橋孝幸・岩本廣美・河本大地（2018）：**遠隔農村地域の学校教育における地域学習の実態―沖縄県国頭村・大宜味村の事例を中心に―．** 奈良教育大学紀要 67(1), pp.1-15.
  http://hdl.handle.net/10105/00013175

- 河本大地・中澤静男・板橋孝幸（2019）：**教員養成課程におけるへき地教育入門科目の設置と受講生の評価―奈良教育大学の「山間地教育入門」初年度の事例―．** 奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要，5，pp.79-90.
  http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2019/CERD2019-R10.pdf

参考リンク

- 全国へき地教育研究連盟

http://www.zenhekiren.net/

- 文部科学省（2018）『ユネスコスクールで目指すSDGs―持続可能な開発のための教育―』改訂版

http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/pamphlet_01.pdf

- 「奈良県発☆へき地教育」

（奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会　へき地教育部会）

https://naraheki.wordpress.com/

- 京都府南丹市立美山小学校

http://www.kyoto-be.ne.jp/miyama-es/cms/

- 京都府南丹市立美山中学校

http://www.kyoto-be.ne.jp/miyama-jhs/cms/